

7月20日から8月1日まで、市内7カ所で市民対話集会を開催しました。行財政改革、産学官連携、学校適正規模適正配置、職員数、ごみ処理問題などについて市長から報告した後、自由に質問や意見を出してもらいました。三豊市全体の課題やそれぞれの地域にかかわることなど、さまざまな提言や要望がありました。市全体にかかわる意見を中心に、皆さんの声と、それに答えた内容を取りまとめ紹介します。



市長、副市長、各部長が出席して7会場で開催した市民対話集会（財田会場）



笠田高校の指導により、段ボールコンポストで生ごみリサイクルに取り組む



四国学院大学との連携により、大学生が放課後児童クラブの子どもたちを指導する

問 自主防災組織の活動が不十分。先進地研修などを行政指導で進めてほしい。消防団員の確保も問題。

答 自主防災組織率の低い地域もある。まずは自治会内で話し合い、支援や相談があれば市に声を掛けてほしい。現状の消防団員数を確保したいので、地域内で世代を超えて声掛けなどをしてほしい。

問 地域審議会は、合併特例法によって条例で設置した会であり、設置期間を平成28年3月までとしている。市民対話集会とは違う意味合いを持つており、審議会の復活を要望する。

答 一定の者の意見だけで決めるのかという、また別の意見もある。より自由な意見を聞く方が良いとの声に応え2年間、対話集会を実施してみても効果を検証したい。

問 「太平洋戦争と三豊」を調査整理すること、戦争体験者は高齢になってきているので早くしてほしい。

答 これは教育委員会が担当するが、重いテーマなので慎重に進めて2年がかりで形にしたいと考えている。市民の皆さんに参画いただき、戦争体験者や遺族会の方も含めて進めていきたい。

問 60歳以上のシルバー世代の力・能力を、子どもの学力向上に役立てられないだろうか。

答 現在、地域の方々に勉強以外の面で生活指導員等として学校にかかわっていただいている。今後、段階的に勉強面でも地域の力を借りられないかと考えている。

問 スポーツ振興について他の市は市民スポーツ課などがあり、地域の体育行事に携わっている。三豊市はどう考えているのか。

答 健康増進的な内容も含め自主運営の中でさらに進めてもらいたい。大学と連携した拠点づくり・組織づくりなどを検討していきたい。

問 バイオガス施設の建設費は試算額で約20億円。あとのメンテナンスにも相当な費用が生じる。人口も生ごみも減少する中、あえてバイオガス施設を建設する必要はあるのか。市民や店舗にごみを出さないよう協力を求めることが先決ではないか。

答 ごみ処理技術検討委員会では、資源として利用するためにはバイオガス化方式との答申が出された。最終的なごみ処理方式は、議会の特別委員会で審議をいただく。建設費は施設の規模・場所・方式によって大きく変わってくる。今後もごみを出さない協力を訴えていくが、これまでの生ごみ処理補助に加え、今年度から段ボールコンポストやEMぼかしの取り組みを始めている。

問 子育て支援が今回の市政報告に無かった。ごみ問題より子どもたちのことを優先すべきではないか。

答 今回はごみ問題を中心に報告したが、子育て支援が市の重要施策であることには変わりはない。新しい子育て支援策として、ポランティア指導員を募集し学童保育の充実を図る試みを行っている。うまくいけば全市に広げていきたい。医療費の無料化も中学校卒業までに引き上げる。

問 三豊市の学校数は多い。学校適正規模・適正配置の学級数はどこで決めるのか。県の適正数は何人か。三豊市は目の届く人数にしてほしい。

答 40人以下で1クラスが基準。2つの学年合わせて16人以下だと1クラスにする基準。市は、できるだけ複式学級は避けている。現在、適正規模検討委員会に学校の適正な規模と位置等について諮問している。子どもたちにとってどういう教育環境が一番良いのか、学校の規模や通学距離、地域とのかかわり等も含めて考えなければならぬ。

問 人口がどんどん減少して、税収が落ちているこの対策をどのように考えるのか。

答 少子高齢化の時代、これをいかに食い止め、活性化を呼び戻すかというのが大きな課題であると考えている。方法として、企業誘致や中小企業振興、また、三豊市に住んでいただくための方策として結婚促進や住宅対策などが考えられる。皆さんの知恵もいただき、一緒にがんばっていききたい。

問 合併後、支所の4割から5割が空きスペースとなっているのに、有効活用できていない。

答 合併以来の大きな課題。できるだけ市民に開放できればと思うが、使用方法については地域ごとに考えていきたい。

問 特別養護老人ホームの入所待ちがかなりあると聞いたが、施設を増やせないか。

答 23年度までの4期の介護保険事業計画で、70床の増設を見込んでいるが、介護保険等負担する側の限界があるので、いくらでもつくれるという状態ではない。

問 施設管理等老人クラブが中心になって行っているが、活動している人の高齢化が進んでいる。市民参加についての支援・施策をどのように考えているのか。

答 市民の皆さんがポランティア活動として施設管理等に従事してもらおうのが理想だが、責任問題や安全面の問題など難しい一面もある。社会貢献できる力がある人が貢献する仕組みづくりをする必要があり、検討していきたい。

問 合併から2割減ったというが、市職員の適正人数は何人か。

答 全国平均は市民1000人に対して職員1人。三豊市は、人口69,000人なので単純計算で690人。保育所が10あるがすべて公立。私立の参画があればさらに職員数は減る。

問 まちづくりは皆さんの声と力によって支えられています。皆さんの提言を、それぞれの部署で検討し実践につなげていきたいと考えています。